

ずいそう

団塊世代の晴耕雨読への挑戦 その2

杉岡博史



前回「08.1月号」のこの欄へ投稿してから早いもので3年が経ちました。前回の内容は、北海道に住む団塊世代、現在63歳の私が50歳位のときに、将来の退職後の、人も羨む優雅な暇つぶしを夢見て、当時の大枚をはたいて500坪ほどの土地を購入して、ログキャビンを手造りし畑三昧の生活に入ろうと計画した。気持ちが高まり過ぎて、ここはロッキー山脈の山の中、使えるものは体と知恵だけと宣言。ログは近所の山林を伐開した丸太原木を手に入れ自分で皮むきから加工して組み上げる。ユンボやクレーンなどの機械力は使わずに剣先スコップ1本、チェーンブロックなどでやると大口をたたいて工事開始。難行苦行の果て、ほぼ完成するものの体は悲鳴を上げ限界状態、休日はずべて根掘りと丸太と格闘の生活で晴耕雨読には程遠いという顛末を書きました。その後、3年経過し、どうなっていることでしょうか。

こうしたい、あーしたい。必ず夢にはマスタープランがあります。この区域は畑、ここは果樹、ここは花畑、ここは樹木、ここには物置。プランは何ら問題なく出来上がりますが、広いようで狭いのが500坪です。あつというまに敷地は配分され、もう少し土地が広ければということになります。ログのための丸太置き場は町道に近いこしかない。しかし、ここは本来は花畑や樹木を植えるところ。樹木や花は仮植えとして、とりあえず、こことここに。今になってみると、この安易さが問題でした。

もう一つの問題、10年も経過すると土地の周辺環境が変わります。周りに家が建ち、本来の景観が確保できなくなります。森のようだった隣家が木を伐採し、我が家の3列に植えられた敷地境界の25mほどの高さのトドマツ林は孤立して、突風により隣地側に倒れるようになりました。止むを得ず、昨年春に60本すべて伐採。残ったのは60個の木の根っこ丸太の山です。これが問題2です。

問題3もあります。畑ではジャガイモを作っています。近くの農家から種イモを買って毎年、生産して配っています。個人が作るには大量すぎる量です。これが問題なのです。

これらの問題は、何が問題かなどとっている暇がない位、とにかく問題なのです。晴耕雨読なんて暢気な事をいつてられないのです。要するに、「もう年なのでスコップを使うには、もう腰が持ちませーん」ということなのです。10年もすると、仮植えした樹木は大きくシッカリと根を張り、マスタープランの本来の場所に移植するにはもう大変。花といえども大繁殖し、大変な面積規模に。問題2がいちばん大変です。元口20cm程度の木を除根は気の遠くなる話です。試しに2根ほど抜いてみましたが、明治の開拓の人の気持ちよ〜くわかりました。業者に頼めば、これまた2回ほど気絶しそうになるほどお金が大変。樹の根は置いておくと敷地を占有し、マスタープランの実現はほど遠くなる。捨てれば産業廃棄物でトン1万円。それに輸送のダンプ代。除根のユンボ代。回送費。あー勘弁してください。問題3の答えもジャガイモ掘りで腰痛の悩み。すべてが根掘りの悩みです。

ここで私も考えました。これらの問題を一気に解決する最高の知恵を出しました。ユンボを買うという秘策を練り出したのです。建設機械の新たな個人市場の開拓や普及の先兵になろうと、昨年10月に農作業にも使えるよう0.03m³級、車重1トンクラスの中古を買ってしまいました。「一家に一台、マイユンボ！」こんなキャッチコピーいかがでしょうか。乗ってみると面白い。ラジコンより面白い。何か自分が強くなったような気がして、新しい世界が広がりました。

問題の解決策がまた問題の種となる。それが人生というものです。切った60本の丸太の山が、畑スペースを占拠し畑の面積が激減し、命より大事なユンボを雨や盗難から守るための、鍵つき格納庫の新たな建設が必要となりました。この二つの問題の解決には丸太で車庫をつくれればいいのだ！ということで、またもや木の切り屑まみれのログビルダーに逆戻りし、晴耕雨読が遠のいていきました。

「そうは問屋が卸さない。」思惑どおりにいかないのが人生です。

まだまだ、ユートピアまでの前途は多難です。合掌。

—すぎおか ひろし 道路工業(株) 取締役副社長—